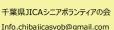
# JICA シニアボランディア 葉

#### SVニュース千葉 第30号

2019年3月5日発行





#### 本号目次

十つロハ	
公開講演会	1-2
出前講座	3-4
出前講座	4-6
派遣国事情	7
千葉国際フェスタ 広報イベント 県庁表敬訪問 会員の動静	8

# 第26回活動報告会を開催

1月25日(金)午後1時より柏市のアミュゼ柏で、来賓としてJICA東京次長長谷川氏、浦安市国際センター長渡辺氏、柏市協働推進課村山氏、野田市企画調整課峯崎氏を迎え、帰国した海外派遣シニアボランティア4名による第26回活動報告会が行われました。

一般参加者11名、会員34名、来賓4名、計49名の参加がありました。



#### <渡邉会長挨拶要旨>

本日は、活動成果を社会還元するという意味で活動報告会をおこないます。4名の報告を聞き、楽しんで頂きたい。

<JICA東京長谷川次長の挨拶要旨>

海外協力隊の活動は、皆さんの派遣される期間において成果を問うものではない。安心して活動してもらいたい。皆さんの活動は、長期的に見て非常に重要である。



近年、青年海外協力隊への参加者が大きく減っていく傾向の中で、シニア層の応募者は増加傾向にあり、シニア海外協力隊に大いに期待する。

#### 「ザンビアでの2年間」 鈴木 核

ザンビアは、気候は穏やかで、銅の輸出で成長してきたが、 気候変動による降雨量不足と銅価格下落により、食糧・電力 不足、経済停滞という問題を抱えている。計画立案とその実 行を不得手とすることが、多様化が進まなかった要因と思われ る。土地は豊か、水も豊富なことに加え、平和な民族であり助 けあいの精神も高く、「何とかなってきた」ことが背景にあろう。そ の文化は大切にしながらも、計画実行できる人材を多数育て ることが、今後の発展とよりよい生活のために必要と思われる。

派遣先である産業訓練センターは国管轄の職業訓練校だが、国からの予算が限られているため、自力運営を図り、企業への派遣研修等で維持成長してきた。しかし、経済低迷に伴い受注が減り、それを補うため新たな市場・顧客開拓に取組んでいるが、組織内のコミュニケーション不足、業務プロセス不透明、具体的計画の欠如などにより、空回り感があった。「全

てのメンバーが活き活きとした、チームワークとコミュニケーションがとれた効率的で効果的な組織となるよう経営層をサポートする事」を活動目標に2年間カウンター・パート(CP)の指導、ワークショップの開催など種々の活動を行った。目標に対しては36%の達成に留まったが、CPと協力して追加活動も行った結果、目標に向け2~3歩は進んだと言える。ザンビアは、ヴィクトリア・フォールズはじめ自然が豊かで、日本では味わえない大自然を、同行してくれた家内と共に味わえたことは、現地の人たちとのつながりと合わせ、人生の宝物となった。



# 「ペルー日本語教育」 佐々木英夫

平成27年度2次隊として、3年間ペルーのリマ市に派遣されました。活動拠点であるペルー日系人協会日本語普及部は、ペルー全土の日本語教育を統括する機関で、日本語能力試験の実施や全国弁論大会などの主催運営機関となっています。

ここでの私の仕事は日本語教育のレベル向上をめざすことでした。当初は、日本語教師養成講座を開講や現役の日本語講師を対象としたスキルアップセミナーの実施を主な活動としていました。

しかしながら、実際の現場で私に要求されているのは、もっと広く、多くの人々に日本語学習の楽しさを知ってもらうということだったようです。活動の後半は、幼稚園から大学に至るまで、

多くの教育機関での講演会活動に軸足を移し、ペルー全土の 主要都市を巡回しました。

また、子供達が楽しめるように独自キャラクターの着ぐるみ (写真) も作成し、自ら被ることもありました。また、大型の紙 芝居を作成し、日本の昔話の紹介などもしてきました。本活動 を契機とし、いくつかの学校で日本語が正規の科目として採用 されたことは、大きな喜びでした。

また、JICAだけでなく、国際交流基金や各国大使館の協力を得て、毎年国際会議を主催してきました。南米スペイン語圏 9カ国の日本語教育代表者に加え、ブラジル、メキシコ、そして

日本からも日本語教育専門家を招聘し、セミナーを行うと共 に、南米各国が抱えている日本語教育の問題を共有し、協働 作業の可能性を探るネットワークの構築をめざしました。

また、このことは、ペルー現地の日本語教育関係者に対して

も、学習機会を提供する場にもなったと思います。



#### 「ウズベキスタンでのボランティア活動」 箕輪親宏

中央アジアの旧ソ連圏のウズベキスタンの首都タシケント (1966年4月26日に直下地震に襲われ大きな被害を受けております) にあるトリノ工科大学タシケント校に地震工学のアドバイザーとして、2015年から2017年までの2年間派遣されました。

研究集会の開催、地震観測、建物の地震の揺れの観測、耐震用の実験装置制作の指導等が大学側の要望にありましたが、実現できたのは「研究集会の開催」と「耐震用の実験装置制作」でした。

日本の友人にメールを送り、研究集会を開くから観光気分 (シルクロードで有名なサマルカンド等の世界遺産があります) で良いからと伝え参加してもらいました。試験装置 (振動台) の制作では、資材の調達をトリノ工科大学タシケント校側が私の到着前に済ませており、大学の関係者だけで完成させようとしていました。調達した資材を見たら、日本の振動台では使わない資材であり、動くか心配しました。

学生達だけで制作し、どうにか動かすことはできました。しかし、思うような動きをさせることはできませんでした。そこで日本の

教授に制御装置を作ってもらい、振動台の体裁を整え、実験 を行えるようになりました。

日本では、試験装置は専用メーカから購入するもので、学生等が作ることはありません。初歩的装置にならざるを得ませんが、自分たちで作ろうとするウズベキスタンの大学の態度には、教えられるところがありました。

その後、試験装置の高度化を狙い、2方向振動台のプロジェクトを立ち上げています。帰国後に連絡を取って進捗状況を聞いてみると、理論検討を行っているそうです。



世界遺産: ヒバ

#### 「アルゼンチン中小企業の現状と課題」

――経営改善に関するボランテイア活動を通じて得たもの―

#### 中西陽典

2018年3月末、アルゼンチンでの2年間の活動を終了し帰国しました。アルゼンチンは、日本の約7.5倍の国土に約4,200万人が居住する南米の大国で、国民の大半を占めるイタリア、スペイン系を中心とした欧州系移民と、極少数の先住民インデイオ(主にグアラニー族)、その他の地域(アジア、アフリカ)からの移民で構成されています。(内日系人は6.5万人と推定)業務や生活面では、公用語のスペイン語が必須でした。

私が活動拠点にしたアルゼンチン国立工業技術院(略称

INTI)の経営管理技術開発普及部は、ブエノスアイレス本部周辺地域の中小企業に対する支援を行うとともに、「経営管理技術ネットワーク」のコーデイネーションを通じ、各地方支部職員を対象とした生産管理・経営管理技術の普及、移転及び彼らと連携した各地方の中小企業に対する支援も行っています。

2016年3月 末に赴任以 来、要請に従 い、中小企業 の経営改善、 体質強化を支 援する活動を



行ってきました。INTIカウンターパートの依頼もあり、本部での活動に加え、地方支部担当者のレベルアップと、地方企業への経営管理技術の紹介、普及を図る為、アルゼンチンの全州23州中、15州の地方支部を訪問、担当職員への研修と、累計100社以上の地方企業の支援を行ないました。

さらに、州政府関係者との打ち合わせに加え、業界団体、 大学でも60回以上のセミナーを実施、JICA/INTI共催の 「第三国研修」の講師も務めました。

2017年からは、「カイゼン」の概念、活動推進手法の紹介に重点を置き、活動を行いました。

### 出前講座レポート (2018年9月~2018年12月)

# 「なぜ観光ですか? ザンビア国の観光の役割」 9月7日(金) 講師 宮崎征士

宮崎氏による「なぜ観光ですか?アフリカ・ザンビア国の観光の役割」と題して、うらやす市民大学のオープン講座第二回目が9月7日に開催されました。

観光の果たす役割、特に発展途上国の経済発展への貢献などについて、自身の体験を判り易く説明しました。宮崎氏の説明は理路整然としており、また聴講生へのアイコンタクトも適切に行われ、好感のもてる講演でした。参加者18名は皆、熱

心に講演を聞き、質問も多数出されました。もう少し任地での

苦労話を含めても良かったかと思われます。

今回は浦安市国際センターの職員の方も聴講されました。また、リピーター数名



が参加していました。(登内)

#### 「ブータン王国から見た幸せとは」

#### 10月5日(金)

#### 講師 三輪達雄



三輪氏による「ブータン王国から見た幸せとは」と題して、うらやす市民大学のオープン講座第三回目が10月5日に開催されました。

中国、インドの2大国に隣接し、長年 安定を保ってきた小国の状況について、 任地に駐在した経験に基づいた講演が

#### 行われました。

活動を通して得られた現地人のメンタリティなどについても触れられ、さらに地政学的に難しい位置にある小国が貫いてきた独特の幸福感について、講師は自身の意見も取り入れてわかり易く説明しました。

参加者39名は皆、熱心に講演を聴き、質問も多数出されました。今回は浦安市役所から複数の職員の方も聴講されました。また前回同様、リピーターが数名いたようです。(登内)

# 「南北に長い国チリ」

#### 10月12日(金) 講師 濱崎 丘

濱崎氏による「南北に長い国チリ」と題して、柏市立旭東小学校の出前講座が10月12日に開催されました。

小学校の6年生43名を対象に、チリの概要から話を始めました。事前に、担任の先生を通してチリについて調べるよう要請を出していたため、講師が質問を投げかけると、生徒たちは積極的に手を上げ答えていました。答えが間違っていることを恐れずに発言することを求め、答えに対しては拍手で褒め称えたため、講座は双方向的で活発なムードで進んでいきました。「国の花」や「国の鳥」などについては、日本の例なども示しながら説明しました。チリにある「世界遺産」についても、単にチリの「世界遺産」を紹介するのでなく、イースター島やマチュピチュの写真

などを紹介しながら、「自然遺産」と「文化資産」、「複合遺産」の違いなども解説されました。

また、任地での活動を 見せながら、スペイン語の 挨拶を生徒に声を出して 練習させ、現地の人々と の付き合い方を分かりや すく教授しました。



最後に「コミュニケーショ

ンをうまくとるためにはどんな勉強が必要か?」という、難しい質問にも丁寧に答えられました。スライドの操作を生徒さんに担当してもらうなど、参加型の講座を意識した素晴らしい内容でした。 (三輪)

# 総会の日程が決まりました! 5月11日(土) 浦安国際センター

その他: 浦安国際フェスタ:5月19日 国際フェスタChiba:5月26日 広報イベント:6月9日

# 「南米の日系社会で暮らして」 10月18日(木) 講師 村田淑子

八千代市八千代台公民館の自主講座「JICAボランティアが語るリアルな世界事情(全3回)」で、24名の塾生を対象に、村田氏が第1回目として「南米の日系社会で暮らして」のテーマで出前講座を行いました。

会場には、予めブラジル移民に関する本、パラグアイの民芸品、マテ茶の茶器、移民の生活が分かる写真等を多数展示し、話す内容が具体的に解り易いよう準備が十分になされていました。

最初に、専業主婦がどうしてJICAボランテイアに応募することになったのか、という経緯を語り、特に女性の聴衆の心を引き付けていました。

休憩時間には、マテ茶を ふるまい、事前に配布した 南米クイズ問題の答え合 わせで、和やかな雰囲気を 作りだしていました。

話の内容は、南米移住の 歴史、ブラジルとパラグアイ の日系人の現在の生活の



様子、任地での活動・生活、日系人が尊敬されている存在であること、東北大震災の時に、パラグアイの日系人社会の人々が東北を支援してくれたこと、を話しました。

最後に、海外ボランティアから学んだことを述べ締めくくりました。 聴衆からは、「素晴らしい内容だった。」「友達も連れて来れば良かった。」の言葉がありました。 (添野)

# 「エクアドルの青い空の下で」 10月25日(木) 講師 弓 貞子



市原市五井公民館で出前講座が開催され、80名もの聴衆が 熱心に耳を傾けました。

講師は、看護師・助産師とし て病院勤務を経て、長年、短大

で看護教育に従事、そして義母の介護の後、キャリアを生かしたセカンドライフのスタートとしてSVに参加したこと、また、訓練所で初めてスペイン語を学んだ苦労話から講演が始まりました。次に、ガラパゴスの動物、生い茂るバナナ林など、多数の微笑ましい写真のスライドを用い、エクアドルという国名の由来、今年は日本との国交樹立100周年、野口英世の黄熱病治療貢献などのエピソードを交えた巧みな話術に、聴衆は引き込まれていきました。

また、ボランティア活動について、国立ボリバール大学での授業、病院や保健所での実習指導では、物不足や貧弱な設備、衛生状態の問題等、厳しい環境の中、頑張って実習現場の戦力となる学生達の様子のほか、標高4,200mのコミュニティで、同僚・学生と共に行った健康・生活改善プロジェクトや、「世界の笑顔のために」を利用した備品整備、他のJICAボランティアと実施した、医療過疎地への巡回健康啓発活動などが紹介されました。

最後に、現地の生活について話され、言葉の壁、インフラの不備など不自由なことはあっても、人々はおおらかで優しく、親交を深めることができたことや、貧しさについて考える良い機会となったことなど、二年間の成果と収穫を述べて、大きな拍手の中、講座を終了しました。素晴らしい秋晴れの下、帰宅する塾生の顔は満足な笑みにあふれていました。(岡崎)

# 「首都プノンペンの教育と学校建設」

#### 11月1日(木) 講師 篠原温雄

最初に、JICAボランティアの活動と目標の説明があり、カンボジアの基礎情報、歴史、現在に至るまでの状況を話した。

首都プノンペンの街の様子やアンコールワットの遺跡、ポルポト 政権下での国情など、年配の聴取者の方々にもわかりやすく興 味の湧くような話題も多かった。

次に、本題の教育については概ね以下の課題で、活動の内容を含めてわかりやすく説明した。

- 1. プノンペンの教育・青年スポーツ局の組織と仕事の内容
- 2. カンボジアの教育の現状
- 3. 学校調査訪問の様子と教育統計
- 4.政府開発援助(ODA)によるプノンペン市内小中学校会建設

5. 草の根・人間の安全保障無償資金協力 (GGP)による小学校校 舎建設

この後、カンボジアの実情、たとえば日本が橋を建設した後に、中国が同じ所にまた橋を



建設したため、二つの橋ができてしまったこと。その後日本の橋は古くなったので、やむなくそれぞれを一方通行にして使うようになったこと。また、プノンペンには日本と同じようなイオンが進出したけれど、物価が高いので、貧しい者などはとても買い物ができる状態ではないことなどを話した。

また、日本語コンテストやカンボジアサッカー監督に本田選手 がなったことなども話した。 (伊藤)

#### 「アジアの国々から学ぶ」

#### 11月2日(金) 講師 山崎 豊



山崎氏による「アジアの国々から学ぶ」と題して、うらやす市 民大学のオープン講座第四回 が11月2日に開催されました。

教員現職時に休職して、協力隊でネパールで活動したことを述べ、その後、シニアボラン

ティアとしてスリランカで活動したとの紹介がありました。

スリランカの説明の中で、ジャヤワルダナ元大統領の日本への 貢献の話をし、参加者は感銘を受けていました。

現地での活動内容、自身が学んだことなどについてわかり易く 説明していました。これからの自身の取り組みで「数学を英語で 教えること」の重要性ならびに、自身の経験をもとに日本人がど のように考えていくべきか、という課題の提供などもありました。

広範囲な内容になっていましたが、全体的にスライドが良く出来ていました。

また前回同様、リピーターが数名いたようです。(登内)

### 「バヌアツとは?」 11月6日(火) 講師 白鳥貞夫

「バヌアツとは?」と題して、白鳥氏による柏市立旭東小学校の出前講座が11月6日に開催されました。

小学校の6年生40名を対象に、自己紹介の後バヌアツの位置から話を始められました。その後、バヌアツの人口や言葉などについて、3択のクイズ形式で進められたため、子供たちの参加意識が高い授業になりました。特に、人口については柏市の半分しかないことを知り、皆驚いていました。また、言葉の数が100以上もあり、隣の村に行くと言葉が通じないことなどは、子供たちには信じられないようでした。任地での活動についても説明され、貨幣経済が未発達のところで、ビジネスについて教えることが大変だったと話すと、「なぜお金がいらないのか?」といった質問も出ました。その後、バヌアツの風景や生活について、多く

の写真を用いて紹介されました。また、世界の幸福度ランキングではバヌアツが一番にランクされていることを紹介し、その算出方法ついても説明されました。

最後に質問の時間を設けると、「どんな食べ物をどのように料理して食べているのか?」とか、「虫も食べるのか?」などという質問だけでなく、「地球温暖化がバヌアツに与える影響は?」といった難しい質問も出て、最近の小学生のレベルの高さを知る

ことができ た授業で した。(三 輪)



# 「中東の風・ヨルダンの暮らし」 11月17日(水) 講師 中井邦夫

最初に、JICAボランティアの活動の説明があり、ヨルダンの基礎情報、歴史、現在に至るまでの状況を話した。

特に現在話題も多い中東情勢、東部の石油産油国の様子やヨルダン川西側の違いなど、年配の聴取者の方々にもわかりやすく興味の湧くような話題も多かった。次に、ヨルダンでのホームスティの状況やアラビア語の説明、家族の生活や子供の教育の内容までおよび、実生活がよくわかった。

以下概要の説明となった。

- 1. ヨルダン大学での活動内容
- 2. 青年海外協力隊とのコラボレーション
- 3. ヨルダンでの人権問題

- 4. UNRWA国連パレスチナ難民救済事業機関の状況
- 5. 政府開発援助(ODA)による支援状況
- 6. ヨルダンに逃れるパレスチナ、シリア難民

この後、ヨルダンの観光地の説明もあった。死海には、JICAが建設した死海博物館がある。その死海の水位が年々下がって

おり、2050年には水がなくなる恐れがあること、この原因は途中のヨルダン川の水が灌漑用水に使われているためであるとのこと、また、国内の有名なペトラ遺跡で、



先日、洪水により、日本人47名がかろうじて避難したことなども話した。(伊藤)

# 講師登録の再登録をお願いします!!

新様式の登録用紙を全会員にメールしますので、希望者は全員、講師の登録を3月20日までにして頂くようお願い致します。

#### 「ケニアでの体験」

#### 11月22日(木) 講師 鈴木伸一

11月22日(木)八千代市八千代公民館で、自主講座「JICAボランティアが語るリアルな世界事情」の第3回目が行われた。講師は、18名の視聴者に「ケニアで何を体験し、どう感じ、何を得たか」について話をした。

ナイロビの健康保健省で、国勢調査のような、集計作業のコンピューター化プロジェクト立ち上げに協力した過程から見えてきた、ケニアの実情を話した。地理的位置や簡単な歴史、気候

などから始まり、見聞した 現地の人々の生活が写 真、ビデオを多用して紹介 した。

さすがにアフリカまで旅行した人は少なく、特に日常



の食事・料理の作り方まで紹介すると、みんな興味深げに聴いていた。 (村田)

#### 「パラオの素敵な人々」

#### 11月28日(水) 講師 中村時夫

中村氏による「パラオの素敵な人々」と題して、うらやす市民大学のオープン講座第五回が11月28日に開催されました。JICAへの応募動機、訓練所でのエピソード、派遣国での活動状況、帰国後の社会活動などを時系列的に分かり易く説明しました。

仕事の話の合間に遊びのスライドを入れるなど、講演自体が 工夫されていました。講演者は巧みにユーモアを交え、受講生 が退屈と感じることは全くなかったと思われます。また、自身の体 験談が一貫して人助けであり、今もそれを続けている、ということが受講生に感動を与えたようです。

受講後のアンケート結果にも「この講義を通じ



て今後の自分の生き方まで考えさせられた。」という意見が多数 ありました。ボランティアスピリットの神髄とも言える、中村講師の 素晴らしい諸活動についての講演であったと思われます。 (登内)

# 「ホスト国:ベリーズについて知ろう」 12月11日(火) 講師 濱崎 丘

山武郡横芝光町の上堺小学校では、全校生100名、先生・一般20名を対象に、大総小学校では、全校生39名、先生・一般17名を対象に1日に2回の出前講座を行った。

2020年のオリ・パラでベリーズの選手団を受け入れるホストタウンになったので、生徒に同国の予備知識を与えるために出前講座が要請された。

講師の仕事はゴミ処理場の技術指導であった。まず、同国の 国旗の図柄から始まり、人口、面積、国花、国鳥、文化遺産、動植物、そして人々の生活、食べ物、多数の人との密な 交流等について多数の写真をもとにベリーズの実情を話した。

聞き手は、1年生~6年生という幅広い対象でしたが、3,4年

生を中心とした小学生の視点で、理解できるように工夫をして巧みな話術で講演した。予さと、調べをしたこと、および生徒との活発な対話方



式で講演したので、生徒の理解度も増し、あっという間に1時間が過ぎてしまった。

ベリーズとはどのような国かというイメージを生徒たちは掴むことができたように見受けられた。(崎元)

# 新しく「シニア海外協力隊」へ

2018年度の秋募集より「シニア海外ボランティア」の制度、及び名称が変わり、「シニア海外協力隊」となりました。また、

2019年度春募集は、2月13日から行われています。詳しくは、JICA海外協力隊募集事務局までお問い合わせください。

TEL 03-6734-1242 E-MAIL contact@jocv.info

#### パネル用写真を募集中!!

活動報告会などで展示する写真を募集しています。特に最近ご帰国の方は、お気に入りの写真を是非お寄せください。

・平成30年10月から平成31年1月末までに当会に合計55,423円の寄付が以下の方々よりありました。 佐々木英夫、篠原温雄、白鳥貞夫、鈴木 核、鈴木伸一、高瀬義彦、中井邦夫、中村時夫、中西陽典、 濱崎丘、箕輪親宏、宮崎征士、三輪達雄、村田淑子、山崎 豊、弓 貞子、(敬称略) 大変ありがとうございました。

# 派 遣 国 事 情 現在派遣中の会員、最近帰国した会員のホットな現地情報です。

# コロンビア

コーヒーの香り

職種 品質管理 大西和夫

ボランティア活動そのものの話は別の機会にするとして、ここではコーヒーに魅せられ活動の合間を縫って訪れた、コーヒー農園の話をしましょう。

コロンビアに来てすぐに感じた印象は、コーヒーがおいしいことでした。あちこちにあるコーヒーショップで飲むコーヒーも、地元スーパーで買った豆をコーヒーメーカーで飲む家のコーヒーも、劇的においしいのです。以前メキシコで活動していた時、グアテマラのJOCVが土産に持ってきてくれたコーヒーの旨さに感激した思い出がよみがえり、まさに今いるコロンビアもコーヒーの産地だと実感しました。

名曲コーヒールンバを知る世代の方は、当時琥珀色のコーヒーに魅せられ、さらにキリマンジェロ、ブルーマウンティン、ブラジルなど世界のブランドに興味が広がりました。ルンバはキューバ生まれのリズムだし、コーヒールンバは、隣国ベネズエラで生まれて世界的ヒット曲になったのも、コロンビアと同じ陽気なラテン文化

そのものだからです。

折角なので収穫期のコーヒーを見たいと思い、いつがベストかと

聞いたこと自体が認識不足でした。標高1,600mのメデジン市内から、いつでも可能というプライベートツアーに参加してみました。



標高2,000m程度の

山の斜面一面に広がるコーヒーの森(と言っても背丈程度の低木)に到着しました。よく見ると、それぞれの木に青、黄、赤い実がそぞろになっています。早速教えられた通り、赤く熟した実だけを指でもぎ取りながらかごに入れます。そのあと熟した実から種だけを取り、乾燥させて焙煎していく過程を経て、あの薫り高いコーヒーになることを体験できました。最後に小さな苗木を自ら植樹し、その農家でローカル昼食をごちそうになってツアーは終了しましたが、当地ならではの貴重な体験ができました。

日本人にとってコーヒーは異国の産物なので、形や製造過程 などは理解しづらいものでしたが、この地に来て体験できたことが 大きな収穫のひとつとなりました。



# カンボジア

プノンペン都便り-水祭り

職種 コンピュータ技術 高崎忠信

カンボジアの首都、プノンペンに住んで1年経過。気温は、一年中25~35℃、路上には、車とバイクとトクトクが溢れ、歩行者を保護するという意識も少ない。歩道に車が停車しているので、それを避けながら、また、ひったくりの危険も予知しながら、前後左右気を付けながら歩くので、道を歩く時は大変だ。

職場には自転車で通っているが、歩くより危険は少ない感じ。スレスレのところを通り過ぎていくバイクも居るけど、まぁまぁ、避け合って今のところ無傷。但し、逆走あり、信号無視あり、横からの飛び出し、一時停止無しの状況だから、日本と違ってかなり気を使う。いつでもブレーキが掛けられる状態で走ってるので、2キロも走ると腕が疲れる。

さて、雨季が明け、満月の夜が来ると、国内各地から多くの

人が訪れ、乾季の到来を祝うボートレースがプノンペン都で盛大に行われる。王様も初日の夜と表彰式の際には臨席される国家的行事。3日間に渡り開催されるが、水祭りの公式情報はネットではみつからない。

長さ、漕ぎ手の数が異なる沢山のボートが早さを競う。グループ分けとか、順位の決め方とかは、定かではない。ボートもオールも相当年季が入ってるから、速さを競うスポーツというよりは、漕ぐことを楽しむ感じなんだろうか?

地元の人は35度くらいの炎天下のもと、川の土手に陣取り、 飲食をしたり、応援したりしながら楽しんでる。僕らは少し離れた ところから、見せて貰い、それで十分な気がした。



#### 千葉市国際ふれあいフェスティバル

千葉市市民会館において、2月3日(日)に「千葉市国際 ふれあいフェステイバル2019 が行われました。

全体では、19団体が参加して各種の展示、賑やかな歌、踊 りのパフォーマンスが行われ、国際的ふれあいの雰囲気の漂う フェステイバルでした。

当会のブースではパネルを展示し、国際理解クイズを行いまし た。クイズには、子供を中心とする63人が挑戦しました。挑戦

者の1割は外国人でし た。

クイズの正解者には皆 様からご寄付頂いた外 国土産の景品をプレゼン トし、喜ばれました。

今回のフェスティバル は、酒井国彦前会長ご



夫妻に、早朝より多大なご協力をいただき、成功裡に終了しま した。

#### シニア海外協力隊広報イベント

昨年の秋募集より、シニア海外ボランティアの名称が、シニア 海外協力隊と変更されたのを受け、2月9日(土)、イオンスタイ ル検見川浜のイベントホールにおいて、JICA東京後援による、 募集・広報イベント「シニア海外協力隊リアル体験談ー世界の 果てに住んでみたー」を開催しました。

生憎の雪模様にも拘らず、前半が40名、後半が28名と多 数の参加者があり、盛会となりました。3時間余りと長丁場でし たが、全部通しで聴かれた方もありました。



プログラムは、JICA海外協力隊の説明、 及び会員2名の活動報告でした。最初に15 分ほど、JICA千葉デスクの永井氏から、 JICA全般、及び、春募集に関する説明があ り、準備した応募書類は全てなくなりました。

次に、岡崎、濱崎両氏から、世界の果てのリアルな体験談が



発表されました。岡崎氏は、「日の沈む王国 モロッコ について、1時間半にわたって話しまし た。モロッコ王室に関する記事から見えてくる 家族関係の違い、音楽活動から見えてくる社 会構造の違い等から、人間社会の多様性を 考えさせる内容でした。濱崎氏は、「世界の

果てミクロネシア」で違和感を持った6つの体験を説明しまし た。日本ではありえないという話に聴衆は驚いていました。

元々このイベントは、我々の活動をもっと広 く一般の方々に知って頂きたいという、岡崎 幹事のアイデアで始めた試験的な企画でし た。

その結果、イオン担当者の評価も高く、次 のオファーがあり、今後もシリーズで続けてゆくことになりました。こ のように、今回の自主イベントは次の活動につながる大きな成 果を得ました。皆様も参加なさいませんか? 多くの方々の講師 登録をお待ちしております。

#### JICA海外ボランティア千葉県庁表敬訪問

表敬訪問が2回行われました。9月14日(金)には、帰国 者3名、派遣予定者13名が、12月18日(火)には、帰国 者9名、派遣者12名が、千葉県庁を表敬訪問しました。

それぞれ、来賓挨拶と千葉県庁の担当部長から、激励の挨

拶があり、出席者か らの抱負及び自己紹 介がありました。

2回とも記念写真 をとりました。



### 会員の動静

会員数 114名(平成31年1月末現在)

平成30年10月1日から平成31年1月末日までの間に帰国さ れた方は次のとおりです。(敬称略)

・佐々木 英夫(流山市)ペルー 日本語教育 ・建川 大輔 (鎌ヶ谷市) マレーシア

電気通信

・増田 光司 (市川市) モロッコ 日本語教育 ・宮澤 三造(佐倉市) タイ コンピュータ技術

コンピュータ技術 ・山崎 勝也(八千代市) カンボジア ・吉田 知弘 (君津市) チリ 作業療法

平成31年1月末日現在の派遣中の方は次のとおりです。

#### (敬称略)

・麻生 伸彦(茂原市)バヌアツ

・石原 建男(富里市)ドミニカ共和国 理学療法士

・岩井 潮里(千葉市)ソロモン

・浦木 仁 (市原市) コロンビア ・大西 和夫(千葉市)コロンビア

・神林 恒男(柏市) コロンビア

・島中一俊(千葉市)ミャンマー、 ・髙崎 忠信(佐倉市)カンボジア

・高田 將之(船橋市)チリ

・田畑 成章(柏市)

・多田ノブオ(千葉市)ベトナム ・畑野 郁子(習志野市)アルゼンチン

·服部 正 (八街市) コスタリカ

・宮野 伸也(千葉市)スリランカ

インドネシア

コンピュータ技術 剣道 再生エネルギー

コンピュータ技術

QC·生産性向上

QC·生産性向上

コンピュータ技術

栄養十

品質管理

日本語教育 体操競技

養蜂 経営管理